

(一社) 日本石材産業協会 公認 オリジナル・ニュースレター

いしずえ ~ ISHIZUE ~



お墓、売りっぱなしでよいのですか？

一度お付き合いしたお客様とそれっきりになっていませんか？

お客様にとって、お墓を建てるということはとても特別な出来事です。

お客様から託された実績と信頼は、まさに貴社の財産です。

『貴社の財産』お客様』を力に、新たなお客様獲得、

そしてお墓文化の輪を広げてみてはいかがでしょうか。

石産協公認のニュースレター「いしずえ」が、

大切なお客様との継続的なコミュニケーションをサポートします。



▲ 射場会長のお店に届いた数多くのお客様からいただいたお礼のお手紙

射場会長がすすめる ニュースレター活用効果とは？

1. 紹介顧客の増加
2. 信頼感とイメージアップ
3. 墓じまいの抑止

その理由は・・・チラシの裏面に！

お客様に選ばれる 石材店をめざす会員さまへ

当店では二〇〇一年一月からお客様向けにニュースレターを発行しています。

二十一世紀に入り「旧態依然とした石材店のままでは、新しい時代にお客様から選ばれる石材店にはなれない」と強い危機感を持ち始めたことがきっかけでした。

最初の発行から十六年が経過し、今では「ニュースレターなしに現在のようにお客様と共通の価値観と信頼関係で結ばれたコミュニティをつくることはできなかった…」そう確信しています。

しかしながらニュースレターを自社で作るのは、手間や時間もかかり、思った以上に大変な作業です。

石産協会公認のニュースレター「いしずえ」は、その点至れり尽くせりです。

お客様から選ばれる石材店をめざす皆さま方に、ぜひご利用いただきたい暮らしとお墓の情報誌です。



(一社) 日本石材産業協会 会長
射場利石株式会社
代表取締役 射場一之

クチコミで新規の顧客開拓に成功している石材店は、 すでにニュースレターを活用しているという事実 ご存知でしたか？！

お客様との絆を深めるヒント その1

「いしずえ」を通じて既存のお客様と継続的なコミュニケーションをはかれます。
お客様がお知り合いの方をご紹介しやすい環境を育むお手伝いを「いしずえ」が担います。

お客様との絆を深めるヒント その2

新規のお客様からのご相談やお問い合わせのきっかけ作りに「いしずえ」を活用することで、
信頼関係の構築や石材店のイメージアップに貢献する営業推進ツールとして機能します。

お客様との絆を深めるヒント その3

お墓文化やお墓に関心を寄せていただける情報提供を通じて、ご先祖様やお墓そのものに向き合う
ことの大切さなどを感じていただくことで墓じまいの抑止にも寄与します。



貴社の広告スペース

「いしずえ」がお客様との絆を一層深めます！

- (一社)日本石材産業協会 監修
石産協・顧客満足推進委員会監修の広報誌です。
石材店が「欲しい!」と思う記事で構成されています。
- 親しみやすい記事
お墓情報だけでなく生活に密着した記事内容です。
食卓や居間で、ご家族の皆様の手にとっていただけます。
- フルカラーでハイクオリティー
貴社のごだわりを、「いしずえ」が紙面で代弁します。
貴社のイメージアップに貢献いたします。
- 郵送代行サービスあり
郵送の手間を省きます。
発送作業をリーズナブルに代行します。
- オリジナル記事を入れられる
自社のイベントや情報を訴求できます。
プロのクオリティーで貴社の記事を掲載いたします。
※執筆代行サービスがございます。

オリジナル記事スペース (商品例)

いしずえ | 料金プラン (消費税別)

【お試しプラン】 ※初回限定のお試し料金

■ 100部/25,200円 300部/34,200円
500部/40,500円 700部/54,000円

【通常プラン】 ※年1回の購読からお申込みいただけます。

■ 毎号100部 28,000円×年4回
■ 毎号300部 38,000円×年4回
■ 毎号500部 45,000円×年4回
■ 毎号700部 60,000円×年4回

「いしずえ」は年4回(春/夏/秋/冬)の発行です。
※お届けは春号(1月末)・夏号(4月末)・秋号(7月末)・冬号(10月末)を予定しています。
※上記以外の部数は別途お見積もり
※郵送代行オプションあり(郵送料込1通あたり160円~)
※オリジナル記事の代筆サービスあり(1号あたり5,000円)

▼ 石産協公認オリジナルニュースレター「いしずえ」のお申込み・見本誌請求は・・・

貴社名	フリガナ	ご担当者	フリガナ
ご住所	〒 -	TEL	
E-mail		FAX	
<input type="checkbox"/> お申込み希望(春号・夏号・秋号・冬号・年4回継続)		<input type="checkbox"/> お試し購入(春号・夏号・秋号・冬号)	
<input type="checkbox"/> 見本誌希望(無料)		※100部・300部・500部・700部のいずれかをご指定ください。	
ご希望部数 []部		ご希望部数 []部	

必要項目にご記入の上、ご希望の内容にチェック(または丸で囲む)を入れていただき

こちらまでFAX送信ください >> **03-3265-1782**

膝の健康を考える

筋肉は、傷つき回復するというサイクルを繰り返すことで鍛えられます。運動後に、筋肉の回復を助けるタンパク質を摂取することで、運動が筋肉に及ぼす効果が3倍になるという検証結果もあるほど。簡単に食べやすく調理して、良質なたんぱく質を摂取しましょう。



漬け込むだけでメインディッシュ!
鶏肉の醤油麹焼き ~所要時間7分~

- 2人前材料
- 鶏ムネ肉 <一口大にそぎ切り> 250g
 - 醤油麹 <市販品> 25g
 - オリーブオイル 適量

ムネ肉も醤油麹に漬け込むことでふっくらやわらか。タンパク質がしっかり摂取できます。



カンタン2ステップ

- 鶏ムネ肉と醤油麹をポリ袋に入れてよく揉み込み、冷蔵庫で半日以上漬け込む。



- フライパンを中火に熱し、オリーブオイルをしいて鶏肉を両面しっかりと焼く。



お手軽ポイント 時間のあるときに漬け込んで冷凍保存すれば解凍して焼くだけなので便利です

By 栄養士・石川 美幸

知っておきたいお墓参りの基本

仏花



お墓参りに欠かせないのがお花。花屋さんで仏花として用意している場合が多いですが、ご自分でアレンジされたい場合、しきたりや決まりなどが気になりますよね。基本的にお花であればこれでもかいいけない、という決まりはありません。また神道やキリスト教でもお花に対する考え方が異なりますので注意しましょう。

仏花の基本

- ・色は白・赤・黄・紫・ピンクの5色が主流
- ・全体を見てひし形になる
- ・本数は奇数
- ・2束で1ペア(1対)が基本
- ・49日までは白い花中心が基本

代表的な仏花

大輪菊・小菊・洋菊・カーネーション・ストック

こんな花はNG!

トゲやツルがある・毒がある・においが強い・傷みやすい。特にバラやアザミは仏事全般で用いられません。ユリは仏花として人気がありますが、花粉が墓石に付きシミになる場合があるので必ず除去しましょう。



FREE SPACE

いしずえ

~ ISHIZUE ~

サンプル誌

2016年 夏号

真心込めて、お墓づくりをお手伝い
株式会社〇〇石材店

〒000-0000
東京都千代田区飯田橋0丁目00-00
TEL. 00-0000-0000 FAX. 00-0000-0000

ご相談・お問い合わせは下記フリーダイヤルへ

0120-00-000

受付時間 / 9:00~17:00



ダミー

~お墓photoコンテスト~
「お墓は幸せのシンボル」

わたしの4歳と2歳の子どもたちはお墓を掃除するのが大好き。本人たちはピクニック気分なのかもしれませんが、手を合わせている姿を見ると、お墓の大切さやご先祖の存在を思わずにはいられません。

お墓にまつわるエピソード
お墓物語

最優秀作品 「お墓参りと祖母と私」

山元彩華さん 女性20歳 (鹿児島県)

私

はお墓参りが大嫌いだった。その理由は、お墓参りを始めてから終わるまでの過程にある。悪夢の発端は、「お墓参りに行くよ」という母の一声だ。お墓に着くと掃除を始めるのだが、やがて足がかゆくなる。蚊に五ヶ所刺されているのだ。六年前、その祖母が亡くなった。十四年間共に過ごしてきた祖母がいないという現実を受け入れ難く、また迷惑ばかりかけて何の恩返しもできなかった自分を恨

んだ。今から自分にできることを考え、思いついたのがお墓参りだった。一年間毎日通おうと決断し、実行した。台風の日も雪の日も欠かさず通った。お墓参りの時にすることは、いつも一緒である。合掌後、綺麗好きだった祖母のため、小箒でゴミを掃き、おしぼりで磨いた。そして、生前と同じようにその日の学校での出来事を話した。あいつちが返ってこないことに涙する日もあったし、遺影の祖母の微笑みに勇気づけられる日もあった。高

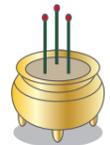
校の合格発表は、どこよりも先にお墓へ向かった。通い始めた頃は、墓へ行くことを心掛けていたが、次第に習慣になり、気づけば心のよりどころになっていた。さて先日、七回忌を迎えた。今でも月に一度は好きなお墓参りに通っている。若いのに偉いと言われるが、そのような事はない。恩返しだけでなく、ただ祖母と会いたいのだ。最近、帰り際にこのようなことを言っている自分がいた。「おばあちゃん、ありがとう。大好きだよ」



教えて、和尚さん!

とある街に住む花子ちゃんは、小学2年生。
今日も仲良しな徳田和尚の所へやってきて、何やら教わっている様子...

こう
お香
について



物知り徳田和尚

- 「おっ、花子ちゃん、今日はお墓参りかい？」
- 「うん、お祖母ちゃんといっしょ。お祖母ちゃんは、まだお墓にいるの。お墓の中のお祖父ちゃんとお話したいんだって」
- 「そうかあ。お祖父ちゃんとお祖母ちゃん、ほんとうに仲良しだったからなあ」
- 「和尚さん、それでね、聞きたいことがあるの。お線香って、何で焚くの？ お祖母ちゃんに聞いたら、和尚さんに聞いて来なさいって！」
- 「ははは、そっか。お線香かい？ ところで、花子ちゃんは、仏さまってわかるかい？」
- 「おしゃかさまのこと？」
- 「そうだな、お釈迦さまのほかにも、いろんな仏さまがいるけど、仏さまって、何を食べるか知っているかい？」
- 「え〜、何だろう？」
- 「仏さまはね、このお香の煙を食べているんだよ。だからね、仏さまの前でお香を焚くというのは、仏さまに食べ物をお供えするのと同じなんだ」
- 「へ〜！ 仏さまは線香の煙を食べてるんだ！」

- 「それにな、もともとお香というのは、人間の体臭や部屋の臭いを消すために使われていたんだよ。臭いを消してきれいにするということから、お香を焚くと、その場所や自分自身を清めるという考えもあるんだよ。ところで花子ちゃん、お線香の薫りは好きかい？」
- 「ううん、あんまり好きじゃない。でも、お祖母ちゃんがお仏壇で焚いているお線香で、時々、いいにおいがあるよ」
- 「そうか、花子ちゃん、いい鼻をしているなあ。いいお線香ってというのは、薫りも、とってもいいものなんだ。今度、お祖母ちゃんにお願いして、いいお香と普通のお香の薫りを比べさせてもらいなさい。比べて見ると、ほんとよくわかるからね」
- 「うん。早速、今日、お祖母ちゃんにお願いしてみる」
- 「それから、線香を焚くときは、仏さまにお食事をお供えするんだ、という気持ちを忘れずに」
- 「うん、わかった。和尚さん、ありがとう。またいろいろと教えてね」
- 「また、来なさい。お祖母ちゃんによろしくね」
- 「うん、さようなら」
- 「はい、さようなら。気をつけてな」

ご存知ですか？「PRAY for (ONE) -小さな祈りプロジェクト-



PRAY for (ONE) (プレイ・フォー・ワン)は、日常にある「小さな祈り」を大切にするために一般社団法人PRAY for (ONE) が中心となって進める事業です。
暮らしの中で行き交う「いってらっしゃい」「気をつけて」「がんばって」などの言葉たち。身近なところにもあふれる「小さな祈り」は、決まったやり方や信仰にもとづいた思いではなく全ての人の中にあるポジティブな感情そのものです。
「誰か＝(ONE)を想う」ことに少しでも多くの人に気づいてもらいたい、もっと多くの祈りが生まれてほしい、そんな想いからPRAY for (ONE)は生まれました。
このたびの熊本地震で被災された方へのメッセージ投稿や、著名人の“祈り”にまつわるエピソードなど、webサイトで公開中です。

【PRAY for (ONE) webサイト】 <http://prayforone.jp/index.html>

小さな祈り

検索

昭和の流行歌 ～歌は世につれ～

『喝采』

作詞：吉田 旺
作曲：中村 泰士

ちあきなおみ

昭和四十七年



いつものように幕があき
恋の歌うたう私に
届いた報せは
黒いふちどりがありました
あれは三年前 止めるあなを駅に残し
動きはじめた汽車にひとり飛び乗った
ひなびた町の昼さがり
教会の前にたずみ
喪服のわたしは
祈る言葉さへ 失くしてた

つたがからまる白い壁
細いかげ長く落として
ひとりの私は
こぼす涙さへ忘れてた
暗い待合室 話すひともない私の
耳に私の歌が通りすぎてゆく
いつものように幕があく
降りそそぐライトのその中
それでもわたしは
今日も恋の歌 うたってる

日本音楽著作権協会 R-0000000

昭和四十七年というのは、高度経済成長と言われる好景気が二十年近く続き、日本が「一億総中流」と言われる社会になってきた時代です。札幌オリンピックが開催され、田中角栄が総理大臣に指名された年でもあります。社会というものが永遠に成長し続けるものだと、誰もが信じていた時代でした。

この年のヒット曲『喝采』は、故郷に恋人を残してきた歌手が、恋人の訃報を受け取るという映画のワンシーンのような情景から始まります。

当時、日本中が好景気に沸く中、たくさんの人が、地方から上京してきました。東京には夢がありました。東京に行けば、たくさんのお金を稼ぐことができ、たくさんの出会いがあり、そして、バラ色の未来があると思われていました。

しかし故郷を離れるということは、そこに必ず別れがあります。大切な人——恋人、家族、友人——と離ればなれになるということでもあります。

『喝采』は、そうした人たちの心を震わせました。自分の境遇と重ねて涙した人もいたでしょう。故郷に残してきた人の大切さを、あらためて噛みしめた人もいたでしょう。また、この歌を聴いて、もういちど頑張ろうと勇気もらった人もいたのではないのでしょうか。

歌は世につれと言いますが、流行歌には、その時代の世情があらわれています。そして人は、流行歌に、自分の思いを託します。私たちは、流行歌を通して、当時の人たちの心に触れることができるのです。

お墓とお葬式の小説

お墓参りに行く前に読みたい、お墓にまつわる小説をご紹介します。
これを読んでからお墓参りに行くと
いつもと少し違う気分のお参りになるかもしれません。

「墓がある！」
砂川キミ子 著
東洋出版 刊

ひよんなことから墓参りのため、生まれ故郷に帰郷した文平。そこで彼が見たものは破格の安値の売家広告だった。
売家をめぐって右往左往する主人公の姿や、故郷の家族との絆や故人との思い出をユーモラスに描いた笑って泣ける秀作。



「野菊の墓」
伊藤左千夫 著
新潮社 刊

いとこ同士の政夫15歳と民子17歳は、互いの恋する思いが遂げられず、それぞれ別の道を進むことに。数年後、帰省した政夫は、民子が嫁ぎ先で自分の写真と手紙を胸に死んでいったと知る。野菊繁る墓前にくずれる政夫。松田聖子や山口百恵の主演で何度も映像化された、涙なしには読めない純愛物語の傑作。

